

第2回都市総合開発審議会 会議録

I. 開催日時 平成30年10月25日（木）午後1時30分から午後3時20分

II. 開催場所 木更津市役所駅前庁舎 8階防災室・会議室

III. 出席者

【審議会委員】（敬称略）14名

植田憲、荻原薫、鹿島典子、鎌田哲也、佐藤泰、鈴木克己、瀬沼健太郎、中村和人、
中村俊昭、野口義信、藤寄保、平野弘和、松田紀道、山口嘉男

【木更津市】

山口企画部長、石井企画部次長、小原企画課長、宗政企画課副課長、亀田主幹、
浦邊主査

【日本経済研究所（委託会社）】

越智地域本部長、高崎主任研究員、中山研究員

IV. 議題及び公開非公開の別

- （1）市民アンケートのクロス集計結果について 公開
- （2）総合分析の結果について 公開
- （3）計画の骨子について 公開
- （4）施策・主な取組シートについて 公開
- （5）重点テーマについて 公開
- （6）今後のスケジュールについて 公開

V. 傍聴人の数 0人

VI. 会議の内容

○企画課浦邊主査

お待たせいたしました。ただいまから第2回都市総合開発審議会を開催いたします。なお、本日の審議会につきましては、会議録作成のため、会議内容を録音させていただきますので、予めご了承ください。それでは、議事に入る前に、鈴木会長からご挨拶をいただきます。よろしく願います。

1. あいさつ

○鈴木会長

皆さん、こんにちは。各界を代表する^{そうそう}錚々たる皆様に、こうして時間を割いてご出席いただき誠に有難うございます。すでに事前に資料は送付してあるという事です。それぞれの立場で、ご意見を忌憚なくいただければと思います。この会も、都市総合開発という審議会であり、総合という名前が付いていますので、それぞれのお立場の意見を忌憚なくいただく

と同時に、総合的な皆様の見識の中での発言を、是非お願いしたいなと思います。そういう事で、ご挨拶とさせていただきます。円滑なご審議、どうぞよろしくお願いいたします。

○企画課浦邊主査

有難うございました。続きまして、本日の審議会から、木更津市農業協同組合の山口委員にご出席いただくこととなりましたので、ご紹介させていただきます。それでは、山口委員から一言、ご挨拶をお願いいたします。

○山口委員あいさつ

ただいま、ご紹介いただきました木更津市農協の山口と申します。先ほど、市長室で就任の辞令をいただきました。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

○企画課浦邊主査

有難うございました。それでは早速、議事に入りたいと存じます。附属機関設置条例第6条第1項の規定により、会長が会議の議長となることになっておりますことから、鈴木会長に議事の進行をお願いいたします。

○鈴木会長

それでは、私が議長という事でございますので、是非、円滑な議事進行にご協力の程、よろしくお願い申し上げます。本日は、阿曾委員、佐久間委員、武内委員3名の方より欠席のご連絡をいただいております。松田委員、野口委員は遅れていらっしゃるということです。本日、出席者は14名であり、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、過半数を超えておりますので、会議は成立いたします。また、本日の審議会は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例の規定により、公開となっており、会議資料・会議録も公開となります。なお、本日は傍聴希望者はおりませんので、ご報告いたします。

それでは、議事に入る前に、第2次基本計画の委託業者であります、株式会社日本経済研究所より、前回の審議会で説明した市民アンケートの施策満足度・優先度に関する訂正があるため、ご説明をお願いいたします。

資料訂正

○日本経済研究所高崎主任研究員

冒頭、お時間をお借りして、資料の修正およびお詫びを申し上げたいと思います。ご迷惑をお掛けいたしました。お手元に、訂正版資料4をご用意ください。ページめくりまして、右上に「修正前」と書かれたページがございますので、そちらを使いまして、誤りの内容をご説明いたします。左下にグラフがありますが、横軸に満足度、縦軸に優先度の記載がございますが、誤りの内容といたしましては、この満足度・優先度を反対に記載していたということでございます。従いまして、現在満足度と記載のあるものは本来は優先度、現在優先度と記載のあるものは本来は満足度という誤りでございました。続きまして、右上に「修正後」と書かれたページがございますが、そちらに修正した内容を簡単に記載してございます。中段には、満足度・優先度の最大値と最小値を記載しておりますが、満足度・優先度を反対に

した値を記載して、修正してございます。

また、前回お配りいたしました参考資料2につきましても、修正してございます。こちらは満足度・優先度について、同じような自治体と順位を比較したものでございます。黄色が同じ傾向、緑色が木更津市に特異的な傾向を示しており、最初に満足度の上位5施策という事で、木更津市においては、「資源循環の推進」、「水産業の振興」が特異的な傾向であるという結果になっております。続きまして、満足度下位5施策という事で、「公園・緑地の充実」、「質の高い行財政運営の推進」が特異的な傾向でございました。また、3ページ、優先度上位5施策でございますが、同様の傾向であったという結果になっております。最後のページに、優先度下位5施策でございますけれども、「人権擁護の推進」が、木更津市では優先度が低かったという事が特異的な傾向となっております。以上が、前回お渡しした資料の修正内容でございます。よろしくお願いいたします。

○鈴木会長

それでは、この件に関して何か質問等ございましたらお願いします。

○鎌田委員

細かな話して恐縮です。参考資料2の2ページ、満足度下位5施策というところで、下段に論点を記載している部分の2点目、市民満足度が2番目に低い「交通安全対策の充実」とありますが、3番目の間違いではないでしょうか。

○日本経済研究所高崎主任研究員

ご指摘の通り3番目でございます。申し訳ございません。

○平野委員

「子育て支援の充実」について、これは前回も、優先度が高いにも関わらず満足度が低いという結果が出ています。その5年後、また同じようなデータが出ているところですが、この間どういう施策があったのか、それに対して市民は満足されていないという状況です。その原因を、今日この場でとは言いませんが追求する必要があるのかなと。この分野は、ニーズが多様化している状況にあるので、一人ひとりの満足度の状況を把握するのは難しいと思われませんが、優先度が高いという位置付けがあるにも関わらず、こういう結果が引き続き出ているので、検討が必要かと思われます。

○鈴木会長

有難うございます。宿題という事でお願いします。よろしければ、議事に入らせていただきます。

2. 議題

(1) 市民アンケートのクロス集計結果について

○日本経済研究所高崎主任研究員

前回の審議会でもいただいた質問に対するご回答という事で、資料1をご覧くださいと思います。1ページ目に、ご回答のまとめという事で、いただいた質問内容及びその回答

について簡単に記載してございます。2ページ以降に具体的に資料を記載しておりますが、時間の都合上、主に1ページ目を使いご報告させていただきます。

5点質問をいただいております。まず、木更津市に「愛着や誇りを感じている」方が感じる木更津市の魅力は何かというご質問をいただきました。アンケート調査結果についてクロス分析を行い、ご質問に対する回答といたしましては、魅力を感じている上位5項目は「東京湾アクアラインや圏央道などの広域道路ネットワーク」、「東京、神奈川方面への高速バス」、「木更津港まつり」といったところが上位に挙がっていました。

また、2番目に、木更津市に「ずっと住み続けたい」理由は何なのかというご質問がありました。こちらにつきましては、木更津市に「ずっと住み続けたい」と回答した人が、どのような魅力を感じているのかという所から分析を行いました。結果といたしましては、先ほど申し上げた回答内容と順位が同じでございまして、「東京湾アクアラインや圏央道などの広域道路ネットワーク」、「東京、神奈川方面への高速バス」、「木更津港まつり」といったものが、「ずっと住み続けたい」と回答した人が魅力を感じているという結果でございました。

続きまして3番目、居住年数の少ない方が感じる木更津市の魅力は何かといったところでご質問がございました。こちらにつきましても、概ね先ほどまでの内容と同じでございしますが、順位が若干変わっております。1番目は「東京、神奈川方面への高速バス」、2番目は「東京湾アクアラインや圏央道などの広域道路ネットワーク」、3番目は「木更津港まつり」と順番が変わってございました。

4番目といたしましては、「オーガニックなまちづくり」を「理解している」方たちの属性はどのようなものかといったところでご質問ございました。こちらにつきましては、理解度に対する属性をクロス分析いたしました。しかしながら、回答のところに記載してございますが、そもそも「理解している」と回答した方の人数が少ないということがございまして、大きな傾向は把握できない状況でありました。具体的な内容としましては5～7ページに記載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

最後に、木更津市における「愛着や誇りを持つ市民の割合」と「市民活動参加状況」を他市と比較するとどうなのかといったところでご質問をいただきました。

この点につきましては、近隣市、あるいは人口が同程度の市で実施されているアンケートから結果を引用しまして比較を行いました。その結果といたしまして、愛着や誇りを持つ市民の割合といたしましては、19市のうち6番目に高い状況となっていました。また、市民活動に参加している市民の割合につきましては、20市のうち12番目という結果でございました。ご留意いただきたい点といたしまして、完全に回答の内容が、愛着や誇りを持つと問うているものと一致しているものではないことと、調査年数が古いものもございしますので、参考という程度で、ご理解いただければと存じます。以上が、第1回審議会にいただいたご質問への回答でございます。

続きまして、資料2を使いまして、「きさらづ未来活力創造プラン」における施策満足度・優先度に関するご報告を申し上げます。1ページ目にグラフを表示しておりますが、先ほど

訂正させていただきましたグラフを、より細かく大きく見たものでございます。横軸が満足度、縦軸が優先度となっております。アンケートで回答いただいた満足度・優先度につきまして重みを付けた加重平均というやり方で、それぞれをプロットしています。右上には、満足度・優先度ともに高い施策、右下には、満足度が高く優先度が低い施策でございまして、行政の中で特に重点的に取り組むべき施策としては、左上の赤字で示してございます、市民の方が満足度は低いけれども優先度は高いと感じられている施策と考えられます。ここに書かれている施策といたしましては、現在全国的に関心の高い分野が多く記載されています。例えば、防災・防犯、子育て支援、高齢者支援、あるいは企業誘致、地域福祉といったところが、市民の方の満足度が低く、けれども優先度の高いとされている結果でございました。

以上が、簡単ではございますが、市民アンケート結果および施策満足度・優先度に関するご報告でございました。よろしくお願いいたします。

○鈴木会長

有難うございます。ご質問・ご意見をお受けしたいと思います。

(アンケート分析結果に関する質問なし)

(2) 総合分析の結果について

○日本経済研究所高崎主任研究員

資料3につきまして、ご説明申し上げます。内容のご説明の前に、資料3の構成について簡単にご説明申し上げます。1ページ目に、基礎調査結果から分かった木更津市の強み・弱み、2ページ目には活用できる機会・さらされている脅威、3ページ目には強みあるいは脅威・機会といったところをまとめたマトリクスを記載してございます。この構成に従いまして、それぞれ1ページ目からご説明申し上げたいと存じます。

1ページ目、木更津市の強み・弱みにつきましては、統計的な分析あるいは今回実施しました市民アンケート、そして前回いただいた皆様のご意見をもとに、木更津市の強みを左側に、弱みを右側に、また、それぞれの内容につきまして、人的・組織的、あるいは物的・財務的資源などに分類して記載してございます。

時間の都合等ございますので、主な点を簡単に申し上げます。まず、木更津市の強みでございすけれども、市民アンケートによれば木更津市の市民の方の愛着は高かったというところではございました。また、前回の審議会におきまして、「オーガニックなまちづくり」に共感する若者も一定数存在するということでご意見いただきました。また、物的資源の方でございすけれども、同じく市民アンケートにおきまして、アクアラインといったところの交通ネットワークに魅力があるということで、一部の方からご意見をいただいているところです。

続きまして、右側の弱みにおける人的・組織的資源の3番目、第1回審議会でご意見いただきました「地区別によって人口構成には大差があつて、多様な福祉ニーズへの対応が十分

ではないのでは。」といったご意見をいただきました。また、物的資源の最後の項目でございますが、同じく前回の審議会にてご意見いただきました、「海の観光資源化が十分とは言えない。」といったところでご意見いただいております。

2 ページ目におきましては、木更津市の外の状況、全国的あるいは世界的な状況について、左側には機会、右側には脅威を記載しております。機会の方につきましては、前回の第1回の資料で記載した内容がほとんどでございますので省略させていただきますが、現在、地方創生に向けた動きが全国の自治体において盛んになっているところでございます。また、下の行に行きますと、かずさアカデミアパーク、企業誘致、あるいは東京オリンピックなどが活用できる機会として記載してございます。

また、右側にはさらされている脅威といったところで、これも全国的な傾向でございますが1 番目には人口減少・少子高齢化の進展、2 番目には都市間競争が激化している状況を挙げさせていただいております。

以上の内容を踏まえまして、3 ページ目には今後どのようなところに取り組むのか、といったところを挙げてございます。3 ページの表では、上に S・W と書かれてございますけれども、それぞれ strength と weakness の頭文字でございまして、先ほどご説明した木更津市の強み・弱みの項目となっております。また、左に O・T と書かれてございますが、O が opportunity 機会、T が threat 脅威の頭文字でございます。このように4つの象限の分類を重ね合わせることで、それぞれの内容から今後の施策を考える、いわゆる SWOT 分析と言われる一覧表でございます。表の左上、SO 戦略は「強みによって機会を活かす」といったところで戦略が立てられる部分でございます。大きく、交流・移住人口の取り込みと書かせていただいておりますが、都内へのアクセスが非常に良いといったところで強みがございしますので、そういった強みを活かして、交流・移住人口を取り込むといった施策が考えられます。右側に行きまして、WO 戦略と書かれておりますが、そちらは、機会を逃さないように弱みを改善する施策でございまして、大きく、港と街なかの賑わいづくりと記載させていただいております。様々な機会ございますけれども、例えば、交流拠点を活かした新たな賑わいづくり、あるいはアクアコイン等を活かした消費の取り込みなどが考えられるところでございます。また、左下に ST 戦略、強みによって、脅威を回避・軽減するといった施策でございます。大きく、持続可能な地域づくりと書かせていただきましたけれども、今後、「オーガニックなまちづくり」といったところを活かして、故郷への愛着の維持形成を促進しまして、他都市への人口流出を防ぐ、あるいは子育て世代に対する支援を包括的に実施しまして、子育て環境の構築といった施策が考えられます。最後に、WT 戦略として、考えられる最悪の事態を招かないように、弱みを克服し、改革するといったところで、最悪の事態を想定して予めどういったことに取り組めばいいかという事について施策を記載してございます。大きく、人口減少・高齢化社会、災害への対応といったところで、具体的には、自治会バス等の新たな交通システムの構築、あるいは女性の就労促進、社会保障費の増大に備えた健康寿命の延伸に向けた取組、広域行政、自主防災組織への加入促進といったところで、最

悪の事態を招かないように、取り組んでいくことを書かせていただいております。以上が、木更津市の強み・弱み、あるいは市外の脅威・機会から考えられる今後の取組でございます。よろしくお願いいたします。

○鈴木会長

有難うございます。それではこの件につきまして、ご質問等ありましたらお受けしたいと思えます。

○佐藤委員

1 ページ目の強みの部分、上から3番目「オーガニックなまちづくり」に共感し、推進する若者が一定数存在するという事で、木更津市さんに気を遣って書いていらっしゃるのですが、これが少ないという事について、この前の議論でさせていただいていると思うので、ここをいかに共感を増やしていくかというところなので、これを入れてしまうことでこの論点が全く崩れてしまうことになります。

そして前回、私のさせていただいた話が伝わっていない様なのですが、人口増を目指さないといけないという中の、いかに魅力を作っていくかというのが一つのテーマであり、市への愛着度が6位というところですが、調査をしている自治体内で6位という所ですので、実際ではたぶんもっと下であるかと思うのですが、そういったところから考えますと、ネガティブだと思いますが、それを真摯に捉えることが大事だと思いますので、あまり振れてしまうような内容は記載しないほうが、私は良い様な気がしております。

○鈴木会長

確かに、数字的にはおっしゃる通りですが、この件に関しまして何かございますか。

○野口委員

今のご意見について、私の考えですけれども、確かに数字的には非常に小さいところがありますが、例えば、私は観光協会をお手伝いさせていただいているのですけれども、今年、千葉大工学部デザイン学科を卒業された方が、観光協会をお手伝いしてくださっています。それで、馬来田に住んで農業をやりたいと。こういう動きというのは今までだとほとんど考えられない。しかしこれは、パーセンテージとしては非常に小さい、小さいけれども木更津の未来を変えていく力があるのではないかと思うのですね。ですから、敢えて、小さいけれども素晴らしい夢だというような感じで、私自身は思っております。

○瀬沼委員

二人の意見、ともに賛成でして、この書き方ですと、「オーガニックなまちづくり」が上手くいっているように思われるのがどうなのかといったところがありますし、だからと言ってゼロではないよねというのが、野口さんの意見だと思いますので、前段に、アンケート結果を入れた上で、この結果を残すというのが折衷案としてあるべき形なのかなと思います。このままだと確かに、誤解を生みやすいのではという佐藤さんのご意見は、なるほどと思いました。

○鈴木会長

事務局、いかがでしょうか。

○日本経済研究所高崎主任研究員

ご意見を踏まえまして、書きぶりを訂正させていただければと思います。

○野口委員

今載っているのは強みの部分なので、これはこれで良いのではないかと思います。一つの弱みとしては、やはりまだ十分浸透していないということを、弱みの方に載せたらよろしいのではないかと思います。

○佐藤委員

そういう事ではなく、今回総合分析のアンケートの中で、メインに記載していることに少し違和感を覚えます。私も、そのような素晴らしい方が増えてきていることはいいことだと思いますが、それは何かしらで残すべきだと思いますが、「一定数」と言うと 50～60%と捉えられてしまうので、それはやめた方が良いでしょう。

○企画課亀田主幹

ご意見の方は事務局の方で、日本経済研究所さんと整理をしまして、書きぶりについて工夫していきたいと思っています。

○企画課小原課長

補足いたします。委員ご指摘のとおり、「一定数」というところにいささか誤解を招くような表現というのは、私も改めて認識をしました。数字だけをとりますと、真摯に受けとめべき低い数値が事実だと思います。とは言え、こういった動きに共感していただけるということは木更津市の財産であることに変わりはありませんので、表記について工夫をさせていただきながら、皆様に加え一般市民の方もご覧いただく中で、誤解を極力無くす様な形で検討させていただければと思います。

○鈴木会長

ということで、事務局、よろしく願いいたします。

(3) 計画の骨子について

○企画課亀田主幹

計画の骨子についてご説明させていただきます。資料4、計画構成案をご覧ください。第2次基本計画の構成案につきましては、資料のとおり考えております。まず、本計画の上位に位置します木更津市基本構想について、始めに掲載いたします。次に、第1章において、第2次基本計画の策定にあたり、1. 第2次基本計画の概要として、策定趣旨や、位置づけ等について掲載いたします。2. 国内の社会経済状況の変化として、国内全般の主な社会・経済の状況について、3. 木更津市のすがたとして、本市の人口・世帯の状況、財政の状況、経済・産業構造等について、4. まちづくりの展望として、将来人口の見通しや、まちづくりの経過として、市民アンケートから見た、第1次基本計画に関して、施策の振り返りを

行うとともに、今後の方向性について掲載します。続いて、後ほどご説明いたしますが、5. まちづくりの重点テーマといたしまして、3つのテーマを掲載いたします。第2章では、施策別の計画として、6つの基本方向と、48の施策について掲載いたします。最後に資料編として、策定方針や策定の経過、本審議会の委員名簿、用語説明などを掲載する予定としております。今後、追加等十分ございますが、計画の骨子案については以上となっております。

引き続いて、策定体系についてご説明いたします。資料5をご覧くださいと思います。第1次基本計画では、全46施策について取り組んでおります。第2次基本計画の策定にあたり、庁内におけるヒアリングの実施等により調整した結果、現在の46施策から、新たに2施策を加え、全48施策での構成を考えております。新たに加えました2施策でございますが、資料3ページ目をご覧ください。右端上から3つ目の「43 移住・定住の推進」、

「44 オーガニックなまちづくりの推進」の2施策を新たに加えさせていただきました。「43 移住・定住の推進」につきましては、移住・定住希望者に対し、相談窓口等の充実を図るとともに、就職イベント等を通じて、本市の住環境の魅力を広く発信し、移住・定住者に対する働きかけの強化を図るためでございます。「44 オーガニックなまちづくりの推進」につきましては、本市の計画推進において非常に重要な視点であることから、施策の一つとして新たに加えたいと考えています。6月に実施いたしました市民アンケートの結果においても、「理解している」と答えた市民は全体の6.5%に留まるなど、市民のオーガニックに関する認知度の低さが表れていることから、本計画において、施策の一つとしてしっかりと捉えることで、一層の推進を図りたいと考えております。以上の2つの施策を新たに加えた48施策で、第2次基本計画を構成したいと考えています。

なお、1点訂正がございます。2ページ目の基本政策02農業の振興と書いてございますが、産業の振興の間違いでございます。申し訳ございませんでした。以上でございます。

○鈴木会長

有難うございます。それでは、ご質問等ありましたらお願いします。

(計画骨子に関する質問なし)

(3) 施策・主な取組シートについて

○企画課亀田主幹

施策・主な取組シートについてご説明いたします。資料6をご覧ください。基本計画及び実施計画の策定にあたり、庁内の各課等が施策・主な取組シートを作成し、それを基に必要性等のヒアリングを実施いたしました。第2次基本計画に掲載する全48施策の施策・主な取組シートとなっております。シートの構成ですが、1ページ目、上から2行目、(1) 施策、その下に名称、目標、現状と課題、課題解決の方向性と記載してございます。(2) 主な取組として、名称、担当課、概要がありまして、最後に、施策目標の実現に関する指標という構成となっております。次頁以降の各施策とも、同じ構成となっております。庁内の担当課は、この48施策に掲げる目標を達成するために、施策に記載した主な取組について

4年間かけて取り組むものでございます。記載にあたりましては、全体を通して整合性が取れているか、また、市民目線で分かりやすい表現となっているかという点に留意して参りたいと考えております。また、専門用語については、巻末に用語集を設けたいと思っております。構成については、第1次基本計画と概ね同じとなっておりますが、これまでと異なるのが、各施策の最後に掲げた施策目標の実現に関する指標でございます。計画を作って終わりにするのではなく、数値という客観的な視点で進捗度を図って参りたいと思います。施策・主な取組シートにつきましては以上でございますが、ボリュームも有り、大変恐縮ですが、それぞれの専門分野から見た施策の主な取組等に対するご意見、全体的なところでお気づきの点等ございましたらお伺い出来ればと思っております。以上でございます。

○野口委員

事務局に質問いたします。健康支援体制の充実というところがございます。今ご説明いただいたように、目標値というのがございます。目標値の設定までは良いと思うのですが、目標値の実現のために具体的なものが無いと、目標達成は難しい訳ですが、今までと同じでは達成できないので、これを契機にするようなことだと、より達成の度合いが高くなると思うのですが、いかがでしょうか。これはここだけではなくて、後ろの方の事業に対してもそういう視点で記述というのはいかなるものなのでしょうか。

○企画課小原課長

今回この指標を設けさせていただいたのは、大きく施策の目標を達成するための一つの羅針盤となる数値だというふうにお考えいただければと思います。この目標を達成するための指標としましては、確かにおっしゃる様に、こういう事業があるからここに向かって進むのだという事が表せれば一番よろしいかと思いますが、今後4年間に関しては予算の事もございます。毎年度、その達成状況・効果を図りながら、市としても事業を進めて参りますので、必ずしもここに記載できる内容が有るとは限らないです。ですので、この施策の中では、大くくりの中で、例えば健康支援体制の充実を図る、それはこういうような試みを行っていくのだという記述に留めさせていただきまして、全体では保健の充実に資する取組を進めていくということで、ご理解いただきたいと思います。その中の指標をあえて挙げさせていただくとすれば、こういった項目を取り上げまして、これを毎年どれぐらい進んでいるのかというのを検証しながら、進めていきたいと考えております。従いまして、個別の事業をここで表すという事までは、現時点ではなかなか難しいものと考えておりますので、トータルの取組として実現に向けて推進してまいりたいと考えております。

○中村俊委員

目標値をきちんと設定していて非常に良いところと、目標値を設定することで、やらなくても良いことをやったり、やらなければならないことを止めたりする様になるのではないかなというところが有ります。例えば、「04 高齢者支援の充実」で、特別養護老人ホームの待機者数の現状値が285人で、目標値が156人ですから、減らすという事で結構でございます。ところが「05 障がい者支援の充実」で、現状値が368人で目標値が40

0人という事ですので、その数字を合わせるために、やらなくても良いことをやったりするのではないかということ。「07消防・救急救助体制の充実」ですが、これも現状値が9.3分のところ目標値が8.5分とありますが、これは非常に意味の無いことだと思います。平成28年の全国現場到着所要時間を目標値としていますが、あくまで目標は5分以内であり、ナンセンスだと思います。その他に、こんな細かい目標値を入れていいのかといったところもありますので、目標値に設定した数値をもう一回確認していただければと思います。

○企画課小原課長

例えば、今ご指摘いただいた消防関係でございますが、目標値としては8.5分よりも今一つ努力を重ねて、5分を目指した方がというご指摘をいただいたところでございます。私どもの考えといたしましては、現時点で全国の消防の救急体制を見ますと、8.5分という数字が平均値としてあるにも関わらず、木更津の場合は9.3分かかってしまっており、これは大きな課題だと考えております。ですので、消防体制あるいは救急体制の強化といたしましては、これはお叱りを受けるかもしれませんが、せめて8.5分という及第点をいただけたところまでは掲げたい。これは、あくまでも目標でございますので、一つの目安として置かせていただきたいと考えております。また、全体を通して、この目標がふさわしいのか、もう少し違う目標を挙げた方が良いのではないかということに関しましては、改めて全体を見渡させていただきたいと考えております。

○鈴木会長

それぞれの分野の方がいらっしゃいますので、それぞれの立場からご意見をいただければ良いのかなと考えております。

○瀬沼委員

1回目審議会の時に、木更津市民からのアンケートだけではなく、例えば移住・定住を希望する方を含めて、東京だとか、ターゲットとなる都市部の意見を頂戴した施策をつくって行った方が良いのではないかというご意見もあったかと思います。施策の構成が正しいですかという質問に尽きるかと思いますが、この中で市内からの情報だけではなくて、他市からの情報というのを組み込む機能について、事務局並びに市の方では、どのようにお考えかなというところを確認したいと思います。ここには書いていないけれども、例えば各課の中にこういう項目を入れていこうと思っているとかがあるならば、前回の意見が活かしていると思いますが、これだけでは分からないので確認したいと思います。せっかく移住・定住という施策が入っているので、より外部を引っ張るという目的があると思います。

○企画課亀田主幹

こちらの施策シートを作るにあたっては、各部各課へは日頃から市民の皆様や、県外・他市からの声を聴いている中で、施策シートをこれからの取組としてつくっていくということで、庁内に投げかけて作成しております。私たちも、その意見が施策に入り込んでいるという認識はありますが、具体的にこの部分でという所は、今すぐ出てこないところです。

○野口委員

ということでありましたならば、もう一步進めて、計画と実現は全く別なものでありますから、各担当課は、必ず実現のための知見を持っていると思うのです。代表的なものを載せると、よりこの全体の計画を推進していく力になるのではと思います。設定の考え方という所まであるので、もう一項目増やして、その重点的な取組は何だと、何によってそれが実現するのだという所まで踏み込んだ全体の計画書をお作りいただければと思うのですが、いかがでしょう。

○企画課小原課長

前回、佐藤委員からその様なお発言をいただいたと記憶しております。外から木更津がどのように見られているのかという視点はとても重要な視点ではないかというところで伺っております。アンケート調査の中でクロスをさせていただく項目として、例えば、木更津に移り住んで数年の方がどのようなご意見をお持ちなのかという所を分析することによって、外から移り住んだ方が感じる魅力等について、改めて、最初にご説明いたしました資料1の4ページになりますが、居住年数が3年未満の方がどのような魅力を感じていらっしゃるのかと言いますと、やはり都心との近接性・利便性の高さ、それから土地の求めやすさ、あるいは自然が残っていることというものが見て取れると思います。一方で、その他の魅力度の低い数字に関しましては、外からの目で言えば、強化していかなければいけないと感じている部分でございますので、この第2次基本計画の策定にあたりましては、この辺りも十分に留意しながら、施策に反映していきたいと考えて、現在整えているところでございます。よろしく願いいたします。

○平野委員

「11子育て支援の充実」について、前回と比べて変わった所と言え、子育て世代包括支援センターが今年度から運営されています。これは子育てへの切れ目ない支援を重視しているので、保育園等は生まれてからの話しであります。これは妊娠期からどう支えていくかという事業でございまして、今後一層充実させていく必要があるということと、次のページにはファミリーサポートセンターがありまして、例えば保育園に通わせている家庭が、仕事が朝早くて、開園時間に合わせていけば仕事に間に合わない場合、その保育園の送り迎えを代わってやるという人達をどうサポートし、それら支援者の数をどう増やしていくかということが重要です。そして、これはオーガニックなまちづくりにも示されていますけれども、「きさらづネウボラ」という出来たばかりのセンターの知名度を、もっと上げていく必要がある、広く知っていただく必要があると考えております。そして、この地域で子育てをしたいと思う人の割合が、目標値95%以上で、現状91.9%まで近づいております。これは評価すべき点であると考えております。これは、移住・定住につながる。ただ、残念なことに、待機児童数が今年の4月1日現在83人であり、この4月1日というのは、実は3月に卒園し、クラスが1つ上がるので空きが出て、入りやすい時期であり、この10月1日時点ではもっと大きな数となっているはず。他の施策の中身を見ますと、女性の就業

支援を行うとありますが、そうなるとうしてもお子さんを預からなければならない。おそらく、この辺の施策を迅速に行っていないと、91.9%のこの地域で子育てをしたいと思う人達の期待を裏切ることになるのではないかと。それが、満足度の低さにつながっているのではないかと推測している訳でございます。これから、関連部署または管理職の方の会議があるとは思いますが、このデータは重要視していただきたいと思います。

○企画課小原課長

子育て支援の充実は、私ども木更津市でも、最重要課題の一つであると認識してございます。特に今ご指摘いただきました「ネウボラ」という言葉の響きも、「オーガニック」と同じだと思うのですが、やっていることは妊娠期から子育て期まで一貫通貫した総合相談・あるいはサポートさせていただく窓口と言えれば分かりやすいのですが、まだまだ名前の浸透ということも課題であると思っておりますので、知名度向上または役割の充実を図って参りたいと思っております。それから、待機児童数の関係でございます。10月1日現在でこの数字は180人程に増えてございます。昨年はこの時期200人程でありました。数字だけを捉えますと、40人ほど減ってございます。それは、木更津市だけの取組に限らず、民間の事業者様の力が非常に強いものだと考えてございます。民間の保育施設が新たに建ったことで、そこへの受入が新たに進んでいる状況です。しかしながら、この数字、4月時点の83名が、翌年度いきなり0となることはございません。ですので、この待機児童を解消するために、今後4年間、必死に努力しなければならないと考えておりますので、改めて目標としてここに数字を入れさせていただきまして、年々の成果というのも捉えていきたいと考えております。

○鎌田委員

福祉の分野ですけれども、今、国の方では、これまで分野別・制度別に手当してきたところではありますが、見直しとして、今後は包括的に支援していく動きがございます。それを各地域に相談できる人材を配置していけるよう、市と社会福祉協議会で相談しているところがございます。そういった記載につきまして、特に「03地域福祉の推進」No.2で、相談支援体制の充実と書いていただいております、「04高齢者支援の充実」No.1で総合的な生活支援や相談業務を実施するという記載がありますが、最低限必要なことは書いていただいているのかなと認識はしていますが、もう少し具体的に書いていただいた方が、他の方が見たときに分かりやすいのかなという感想がありますので、担当課にお話しいただければと思います。それから、「04高齢者支援の充実」No.4に介護給付の適正化を図るとありますが、何を目指しているのかが良く分からない。現状がどうであって、適正化するとはどのような状態を指すのかわからないため、記載の仕方を少し考えて欲しいと思います。

○佐藤委員

「33交通体系の充実」ということで、東京に通っている、前のアンケートで取られた12%位の人間の一人であり、かつ居住期間が3年未満である者の意見として聴いていただきたいのですが、ここには東京と木更津の間の交通のことは書いてあります。例えば、駅前

からお酒を飲んでバスで帰ろうとすると、もう真っ暗で夜9時から10時位にはバスが終わってしまい、タクシーで帰らなければならない状況です。ですので、本当は週に1回飲みに行きたかったのが2週に1回になってしまうという所があります。電車を停めよう、もう一つ駅を増やしましょうということよりも、まず足元のインフラをしっかりといただいて、例えば農業の分野で言えば、最近ニュースになりましたが、高い技術を使って無人のバスの試験走行に取り組むというようなことが検討されると、夢があっていいかなと。これですと、「まあそうですね。」で終わってしまいますような気がしますので、その辺りご検討いただけたらと思います。

○企画課小原課長

木更津市におきまして、現在公共交通について、バス事業者さん、あるいは市民の方、様々な団体等による協議会組織をつくっております。いわゆる、公共交通の使いやすさ、維持・継続に向けて今後の方策を進めているところでございます。今日いただいたご意見につきましても、担当課を通じて、終バスの時間の延びを伝えさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○中村俊委員

「21 林業の振興」について、前回から継続の取組かと思いますが、現在、林業の振興に市が取り組まなければならない状況にあるのかは、はっきり言って疑問だと思います。50年前は、千葉県で林業をやっている所は1軒しかなかった。それが隣の君津市にある県立君津青葉高校に林業科があったのですけれども、これは全国でも20程度しかないものでしたが、今はその林業科がなくなりました。ですので、現実に林業でもって生計を立てている人はいないと思います。ですので、その課題解決の方向性に記載のある「シイタケやタケノコ等の特用林産物の安定供給」などの取組は、「20 農業の振興」に組み込んだ方が良くと思いますし、オーガニックなまちづくりという全体のものに合わせるためにも、これを里山整備の促進とか森林の整備とか里山の促進とか、その様な形に変えた方がよく、林業の振興という一つの項目を設ける必要はないのではと考えます。

○企画課小原課長

確かに木更津市については、林業について、産業の規模としてはとても小さいと認識しております。一方で、山間部といいます富来田地区などにいわゆる林、森林を抱えている市でもございます。その中で、少なからず林業という部分がゼロではないということから、やはり、林業の何らかの振興、あるいは今おっしゃられている里山という部分が、これからの時代のキーワードになってくるかと思います。これまでのような木を伐採し、それを流通させていく取組も然りですが、ここに記載させていただいております、「ひとと森林の共生」という部分で、里山としての森林を荒らすのではなく、市民の皆さんと森林を守るという部分についても取り組んでいるところでございます。ご指摘の点は重々承知してございますが、現時点では産業というくくりの中で捉えさせていただければと思います。

○植田委員

1つは、オーガニック（なまちづくり）を周知するという観点から、44番として施策の一つとして捉えていただくのは良いのですが、今日の議論を拝聴いたしまして、いずれもオーガニックに関係することが結構多いなという印象でございます。なので、もう一つオーガニックという概念をそれぞれの項目に咀嚼していただいて、入れ込んでいただくと、木更津市さんらしい総合計画というのになり得るのかなと感じています。

関連して、私どもの学生がこちらの暮らしぶりを学ばせていただくために、泊まり込みをさせていただいています。そういう経験の中で、これまで知らなかったことをたくさん学ばせていただいています。緑というものが、一体どのように人々が努力をして、創り上げてこられたのか、そこにどんな知恵の積み重ねがあるのかについて学んでいるのですが、野口さんの紹介にもありましたように、観光協会にご厄介になっている学生もいます。例えば、観光と言っても型どおりの観光ではなくて、観光には現在「オーガニックツーリズム」という概念がありますが、観光の部分を見ると、産業としての観光の記述が非常に感じられまして、そういう観点でも、「オーガニック」という概念を入れ込んでいただければと感じています。

○企画課小原課長

いただきましたご指摘に関しましては、このシートの中に反映させて参ります。言い切らせていただきますが、実は、「オーガニックなまちづくり」という概念は第1次基本計画を作成した後に出てきたものでございますので、第1次基本計画では一言も出てきません。今回、第2次基本計画を作成するにあたって、途中から入ってきたまちづくりのコンセプト「オーガニック」というのをどのように入れ込んでいくのかという所については悩んでいるところであります。今回、改めて、各施策シートにおけるオーガニックな取組を洗い出し、記述については工夫させていただくが、各施策の「オーガニック」な取組について羅列を考えていきたいと思えます。加えて、観光における「オーガニックツーリズム」という概念が新たに出来始めているところでございますので、その捉え方については内部で検討させていただきたいと思えます。

○中村俊委員

今の件につきまして、オーガニックな取組は農業の部分、かずさDNA研究所における有機農法の研究、それと農業高校やJAをお願いしまして、有機農産物を名産品化したら良いのではと考えております。それと、商工業の振興というところで、電子地域通貨「アクアコイン」について申し込んでみようかなと思いましたが、対応する金融機関は君津信用組合しか無く、千葉銀行など他の銀行でも出来たら、非常に良くなるのではないかと思います。関連して、最もお金を持っているのは老人であり、彼らが必ずお金を出す機会は葬式です。その機会を利用した慶弔金券のようなもの、地域振興券のような形で出せば一番良いのではと考えており、それも検討していただきたいと思えます。

○企画課小原課長

アクアコインに触れていただき、誠にありがとうございます。10月から本格稼働した新

しい取組でございますので、これからどんどん市民の方に愛されるような制度にしていきたい、また事業者の方にもご協力いただき、使える場所を増やしていくというのが取組推進に大きく寄与するものだと思いますので、色々な手法につきましても今検討しております。今暫く期待していただいて、使いやすいような形にして参りたいと考えております。

○鹿島委員

「16 市民文化の充実」についてですが、市民会館の大ホールが使えなくなって結構年数が経っているのですが、市内の芸術団体が何か大きなイベントをする際には、大体隣の君津市の文化ホールを利用することが多い状況です。そのように大きなイベントが、よその市で行われてしまう状況でありますので、大変残念な気持ちであり、市の方で検討されているようでございますけれども、なるべく市民会館に代わる施設を早く造るように働いていただきたいなと思います。そういう所で、歌や踊りに色々と活動されている方は、90 歳くらいになってもとても元気なのです。健康寿命を延ばすことにも繋がっていますし、その辺のことを具体的に、もう少し早めに進めていただければと思います。

○中村俊委員

関連して、「16 市民文化の充実」について、金鈴塚古墳の国宝化に向けた手続きを円滑に進めていくという記載が有りますが、これは絶対に必要なことだと思っております。これは非常に貴重なものであり、国宝指定となる寸前にありますし、千葉県には国宝が4つしかありませんので、市の方で強く推していただきたいと思います。

○野口委員

金鈴塚古墳の件ですが、かつて発掘した時に国宝になる予定だったそうです。構成委員の多くが賛成した中で唯一委員長が反対を主張して、国宝化が没になったそうなのです。その後、その委員長は「大変申し訳ないことをした。」と懺悔したとの話を聞いております。

また、「オーガニックなまちづくり」の推進についてですが、木更津市のオーガニックは農業ということだけではなく、生活の全般をオーガニックとして捉えていくのだということで、ああ、そういうことなのか理解したところでございます。そういうところで、「オーガニック」としての視点でもう一度繋ぎなおしてみようということは、これは市民の多くがオーガニックとは何だという中でもって、大きく進んでいく基になると考えております。改めてお願いしたいと思います。

(4) 重点テーマについて

○企画課亀田主幹

重点テーマについてご説明申し上げます。資料7をご覧ください。第1次基本計画では、特に重点的に取り組むべきテーマとして、木更津力を発揮する4つの重点テーマを設けておりました。今回の第2次基本計画においても同様に、「オーガニックなまちづくりのステップアップ」と題しまして、3つの重点テーマを設け、施策の推進に取り組んでいこうと考えているところでございます。

(資料7について読み上げ)

この重点テーマは未だ案の状態でありまして、今後市民の皆様によりご理解いただけるような言い回しなど、工夫して参りたいと思います。委員の皆様から、何かご意見・ご指摘をいただければと考えております。以上でございます。

○鈴木会長

これは基本計画の中でどういう位置付けになるのでしょうか。

○企画課亀田主幹

基本計画の中に、重点的に取り組むべきテーマとして入れ込んでいきたいと考えております。補足として、資料4の構成案の中で、第1章の一番下の部分、まちづくりの重点テーマという箇所、「オーガニックなまちづくりのステップアップ」として、こちらの考えを入れ込みたいと考えております。この次に、先ほどの48施策が位置するイメージでございます。

○鎌田委員

1 ページの人がつながり支え合うまちづくりの3番目で、主に福祉に関しては、福祉自体が非常にオーガニックな要素が必要な分野だと思っております。例えば、高齢者に対する福祉サービスの充実に努めるとありますが、一方的に提供するのではなく高齢者自身が活躍して、自らの課題を解決していくという、そういう循環みたいな活動が、オーガニックな取組となるのではないかと考えています。

○瀬沼委員

人がつながり支え合うまちづくりの6番目で、電子地域通貨「アクアコイン」の普及推進とあるのですが、木更津市に足りていない部分としては「商工業の振興」があり、その一翼がこのアクアコインだと思っています。重点というテーマですので、もう少し中小企業支援等、厚みを加えられたらと思っています。市の皆さんと一緒に具体的な策が出せるようにしていきたいと思っています。アクアコインは策であり、その策を使っていくような消費活動を高める仕組みについて、後2～3行足せるような具体的な策を考えていきたいと思っています。

○中村俊委員

多様な地域資源を磨くまちづくりの3番目に「都心に一番近い田舎」とありますが、非常に大切なことであり、特にネーミングの工夫が一番大切だと思っています。ネーミングによっては木更津が非常に注目されると思いますので、人口の社会増に向けて取り組んでいただければと思います。

○企画課小原課長

この重点テーマにつきましては、事業を羅列するという表現を使っていません。何故ならば、その次に続く個別の施策の上に立ち、つながるようなものとして、これを定めたいと考えておりますので、御意見として頂戴いたしますが、それが重点テーマに反映されるのか、または施策の方に反映されるのかということについては、こちらの方で議論させていただきたいと思いますので、その点ご承知いただければと思います。

○野口委員

多様な地域資源を磨くまちづくりの5番目について、訪日外国人が重点的となっておりますが、是非、量的には国内の観光客が多い状況にありますので、できれば、そういう記述も一言つけ加えて頂きたいと考えますが、いかがでしょう。

○企画課小原課長

オリンピックもございますし、国内外の色々な方をお迎えする制限はしてございません。表現として、工夫させていただくとすれば、DMOとも連携して回遊性向上に向けた取組といった部分で、改めて木更津の方に、国内外を問わず多くの方をお招きし、市全体を回っていただきたいということで、表現を少し工夫させていただければと思います。

○植田委員

素晴らしい文章だと思うのですが、全体的な紹介部分の3行目、非常に細かい部分なのですけれども、「本市の弱みを克服し、強みを活かした」とするより、「本市の強みを活かして、弱みを克服」と言った方が、木更津らしく、またオーガニックに繋がるかと思います。同様に5行目にある、「本市の弱みや強み」よりも「本市の強みや弱み」の方がポジティブな表現な気がしますので、ご検討いただければと思います。

もう一点、6行目の「そこから見えた現状と課題を解決するとともに」とありますが、解決するのは結構大変なことです、克服の方が良いかなと。その方が皆でポジティブに乗り越えていこうよ、それもオーガニックなのかなと考えております。

○企画課小原課長

意図して少し自虐的という意味は無いのですが、改めて言葉の遣い方はとても大切だと思います。皆さんに意図が伝わるように、言葉についても検討を重ねさせていただきます。ポジティブにということで、承りました。

(6) 今後のスケジュールについて

○企画課亀田主幹

今後のスケジュールについてご説明いたします。資料8をご覧くださいと思います。本日の第2回都市総合開発審議会以降についてご説明いたします。11月7日に庁内の各部の次長会議であります、第3回総合計画策定会議、11月16日に各部の部長会議である政策調整会議、11月21日に、市長・副市長を交えました総合政策会議にて計画の素案について、庁内で検討を行います。庁内会議でも、変更・修正が出てくるかと思っておりますけれども、委員の皆様におかれましても、改めまして計画の素案をお送りいたしまして、書面で恐縮ですが、ご意見等をお伺いいただければと考えております。市議会に対しましては、12月11日の総務常任委員会協議会及び12月18日の議員全員協議会にて計画の素案と意見公募の実施についてご説明申し上げます。市民の皆様から、広くご意見を伺う意見公募につきましては、12月19日から一か月間実施いたします。年明け1月の下旬頃に、意見公募を踏まえまして、第3回都市総合開発審議会の開催を予定してございます。審議会

頂いたご意見を踏まえまして、庁内の会議である総合計画策定会議、政策調整会議、総合政策会議において、計画策定についての案の決定を行って参りたいと思います。その後、3月市議会において議会に対し説明を実施し、第2次基本計画・実施計画の策定・公表というスケジュールにて取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

(スケジュールに関する質問なし)

3. その他

○鈴木会長

事務局から何かありますでしょうか。

○企画課亀田主幹

特にございません。

○鈴木会長

その他言い足りなかったことが有りますでしょうか。

無ければ、皆さん貴重な時間を割いていただき有難うございました。以上で、第2回目の都市総合開発審議会を終わらせていただきたいと思います。有難うございました。

第2回都市総合開発審議会の内容について、上記のとおり確認します。

平成30年//月 2/日

都市総合開発審議会 会長

鈴木克己